(郵便書類認可)　八十六(本號四頁)　明治二十一年十月廿六日　(定價二錢)

時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千八十九號
明治廿一年十月廿六日　金曜日
舊戊子九月廿二日　(庚午)
日出午前五時五十九分　入午後四時五十一分
月出午後九時二十四分　入午前十一時十三分
潮汐午前八時四十二分　午後九時
(西暦一千八百八十八年)

時事新報

多數崇拜論

菊池武德 草

文明主義の我國に浸入し來りてより世は新舊更代の時節に向へりとて天下を擧げて舊物破壞に忙はしく社會諸般の事物その影響を被らざるは幾んど稀にして全然新社會を組成せんとの趣なれども凡そ外形を變ずるは易く內實を改むるの難きは物皆然る所にして近來の文明主義とても唯外形を一掃しさるのみ其內實に至りては依然として未だ拔く可らざるもの甚だ多く爲めに運動不自由の有樣に陷り、頓未不揃の次第となるもの比々鮮なからざるが如し然り而して此文明主義の中に就て最も我國の人事に變革を與ふるの大なるものは夫の多數によりて事を決するの流儀是れなり蓋し一個大人の命令に甘服伏從するときは百事の決行滑にして時に非常の利便を得ることありと雖も動もすれば專橫に失するのみならず一人の獨斷は甚だ頼み少なきものにして衆人協議の安全なるに如かずとの道理より西洋諸國に於ては夙に多數法の勢力を得たるものならん然るに此事たる先年端なく我國に傳來して數人以上に涉る事件は大抵會議に付して多數の決議に從ふことあり將た人を推撰するにも多數を標準として小は一私會社の相談より大は府縣の議會に及び今や將に國會を開いて國の法律を制定するにも多數によりて可否せんとするに至れり我輩は決して右の多數法を非とする者にあらず否今後ともに此法の廣く行はれんことを希望するものなれども顧みれば僅々二三十年の其間に斯る激變を惹起せしことなれば多數法の主義は果して深く人民の腦裡に浸染せしや否や之を實際に徵するに近來一社會一團體の規則として外形は何事も多數に依頼するの法を採用すれども其團體を組織したる個々人々の內心を窺へば怪むべし昔日大人崇拜の念慮は未だ全く去りやらざるが如く尊し亦之を崇拜せざるにもせよ未だ重きを多數に置くと彼の大人を崇拜するが如くある能はざるは事の明白なるものにして何人も知る所なるべし我輩屢々各地方議會の模樣を聞くに往々之を證するに足るべき談柄ありて既に多數の議決と經たる後までも一旦議場に發して唱へたる反對說は固く執りて中々承知せず其極、輩としては紛れて解けざる樣の次第に立到ること少からざるよし蓋し此等の人々とても其內心は必ずしも執拗邪曲なるには非ずして時代が時代ならば一個大人の指示に甘服して更に他念なき者ならんなれども議場の衆議は例の不思議の妙力に乏くして大人の指示に似さるが故に銘々自身の議論を行ふに熱心して今の多數の議決は昔の大人の指示に置換へらるる可きものたるを認めざるに由ることあらん是も文明草創の際意の如くならざる事の次第として諦らひれば夫れまでのみとなれども既に昔ねく多數主義の外形を採用して人事諸般の方向を決することとなりたる上は其關係の及ぶ所頗ぶる廣大なるものなれば唯自然の成行に一任す可きにあらず成る丈け此主義の眞實を涵養し孜々として將來の準備をなさん事あそ肝要なれ例へば多數と云へば三十人の仲間に於て十四に對する十六も亦是れ多數たらざるを得ずして斯る場合に於ては如何にも堪へ難き樣なれども之を諦むるは則ち重きを多數に置くの本意にして既に一旦議決の上は全く其心事を蹂へして他の十六人と共々に同意見の人となり互に相提携補助せざる可らず若し然らずして飽までも自說を固執し陰に陽に反目乖離するの有樣にては其結果如何なるべきや事柄は異なれども爰に數百の兵馬一隊をなして敵と戰はんとするに當り進擊論と退陣論の二派に分れて進擊論は遂に軍議に多數を占めたりとせんに退陣論者は自說行はれずして空しく手を袖にして傍觀せば進擊の人々は闇々敵に屠殺せらるゝの外なかるべし全軍の利害を思ふ者は能く此慘狀を忍ぶべきや否や自問自答して其非を知る可し左れば何れの會議に於ても未だ決議に至らざる間い如何に審議討駁するも不可なきのみか次會に於て再び前議を呈出するも差支なしと雖も唯一旦決議となりたるものは心の底より是い爭論無用なりと觀念して茲に意向を一變し前の論敵に贊成すると恰も彼の頑人が陣に臨んで進退を共にするが如くならざる可らず米國にて大統領を撰擧せんとする時に當り國人い殆んど半狂して自黨の候補者を撰擧せんと熱中すれども恢いよ〳〵決定とあれば其自黨に落つると敵黨に歸するとを問はず前の狂熱は拭ふが如く消散して恰も大風を夢みたるが如く斯て四年目に非されば決して動搖するとなしといふ我輩の常に贊歎する所にして日本の社會にても今や既に多數法を採用するに至りたるとあれば此精神をも併せて移植せんと欲するものあり我國人は此心を以て心とすると能はざらんか廿三年の國會尙早しと云はれて更に一言の意見を執なのるべきなり

雜報

○英國政黨の變遷　曩に愛蘭の事に關してグラッドストーン氏と他の自由黨領袖の間に說を異にしチャンバリン氏等を領袖とする聯合自由黨は去つて現內閣即ち保守黨に荷擔することゝあれるが去月廿日右聯合黨と保守黨共同の朝餐會席上に於てチャンバリン氏は近頃有力の演說を爲せり其大意を記さんに聯合自由黨は恰も上陸して後ち船を燒き捨てたるが如く自由黨に向つて歸る能はざるものにして現政府に對し飽までも助力せんと誓ふたればグラッドストーン氏一生の間は同氏に向つて抵抗を試むることあるべし而して在朝黨は總べて黨派の私心を捨てゝソールズベリー侯及びハルフォア（愛蘭事務大臣）氏の勢力を維持せんと用意しバルフォア氏の愛蘭に對する政略は希望設計兩ながら稱賛に堪へざる所なしてチャンバリンも亦其政略に付ては大に責任あるものなり獨り愛蘭の政略に關するのみならず其他保守黨政府一般の政略に付て吾人い責任あるに相違なし如何とあれば吾人は屢々政府の質問を受けて助言する毎に多くは計用ひられざるのみとあるにもせよ政府を援助するに決して違變あるべからず現政府は今漸く二年間持續したるのみなれども今後五年を經て滿七年の一期限は充分其勢力を保つのみと蓋し決して疑ひならざるなりとの意味にて同氏が此演說を爲すや否やグラッドストーン氏の機關新聞と聯合黨機關新聞の間に或は非難し或は辨護し其是非する所矛盾と一般相反對するは實に左もあるべき事にして茲に局外の判斷を下せば右チャンバリン氏の演說は遠からず或る一黨の起るべき前兆なり抑も一致黨組織の事に付ては過ぎし頃よりチャーチル、チャンバリン、ハーチントン其他溫和保守黨員の間に協議ありて既に其議も大略は熟したる樣子なればチャンバリン氏の此演說を始めとして追々其實情顯はれ終に來る總撰擧の曉に全く世間に發表するに至るべしと云ふ

○獨逸學生の情態（前號の續き）　扨て又此の組合の親密なるは實に非常にして常に「貴樣何をセロ」の語氣を以て交際し居れども其間柄は整然たる規律有りて日に親みて益々敬するとでも謂ふべき有樣ありて惰弱に流れ上下の禮を缺くことなく約束、時間、貸借等は寸分規を違ふ樣の事無くして之れを日本學生の土曜日の約を日曜日に延べ借りたる金は我物なりと思ふ如き習慣を回想しては冷汗を流すの外無し學生の情態斯の如くなれば其資格も從つて高く日本學生の如く社會一般より書生は天下の亂暴者と見做され欺辱ふまで引合ひに出されながら尙も知りつゝ稱にい英雄を氣取てビスマーク、グラッドストンも人なり我れも人なり何んでもホラと亂暴は書生の內に在りあと誤解して甚ざしきは是れを外形上にさへ顯して恬然恥ぢざる者に比すれば其差幾何ぞや日本書生は少しく顧慮する處ありて可なり、獨逸書生の社會一般より尊敬せらるゝ一例を擧ぐれば誤つて途上違警罪に觸るゝや普通の人あれば拘引せらるゝに所なれ共學生あれば姓名を署せし迄にて拘引せらるゝとなく後刻其違警罪の輕重に相當したる罰金を宿所へ取りに來る如き始末あり以て日本學生と獨逸學生との位地の差違を知るべし、扨て獨逸の學生い前記の如き資格を有するを以て自分一己の名譽は延いて國家の名譽に關し國家の爲めには生命をも擲つの主義にあり居るを以て他人に無禮を受くるや名譽回復の目的よりして即ち決鬪を行ふことなるなり今其概略を述ぶれば他人より無禮を受くるや其人人は直ちに無禮者に向て名刺を乞ふあり乞はれたる者は又名刺を與へざるを得ざるの風なり而して名刺を得るや直ちに組合よりて無禮の始末を說き其不禮にして決鬪の價値ある時は更に使を以て無禮者に決鬪并に其日限を申込む無禮者は決鬪を申込るゝや應病者なれば兎も角も互に伍角の資格を有する者あれば之れを應じて組合の人なれば自己の組合に告げて決鬪の用意を爲し組合外の者なれば更に組合に入るなり其武器は決鬪を申込れし者より之を擇び此の如くにして定期の時日に至るや寸刻を違へず設けの決鬪場に出場す此時の見物人は非常ある者なり而して兩方の組合よりは各々審判官として組長出場し或る時にい前記の如き名譽會員たる貴顯も其席に列ありとあり同時に必ず醫師も附添ひ居れり尤も事柄よりは必ず死を決せざるを得ざる者あれば兎も角其處は文明國丈けありて生命の貴重なるを知れば醫師の診察上就れか生命に關する程の傷を受くる時は中止して勝敗を決するなり、勝敗に於て勝敗既に毀傷を受くるに至る時は命なき時は闘はざるなり、野蠻風あり其元氣を維持が故なりとして嚴禁に陷いりたるも由尤も文明を禁止し有れども謂ふ所以は知るべし且つ決する能はざるの之れに應ずるは僅々二三箇月名譽とある此然れども同社會に絕たるとして嚴禁に陷いりたるも文明の意を誤解し居の多きを鑑みて九人迄面部の組合の如きは有るよし是れのにて亦是非雄當年の事跡感慨する文曳く所なるが日本の名所なる詩人杯の雜草に腰掛しも是より後出て〳〵來遊なるべきや、川家康が織田の幕の中に大敗三百餘年後の計るには一新する感じ居りしく平均一年する服部東春れに有志者倶樂部樣の家の事なりしは勿論在東京々よりも贊成會館より去る廿一日陸軍將校學校教員、園式に參て煙火、山車、獅せる者夥たし

○尾州小牧山

○英國政黨の變遷　曩に愛蘭の事に關してグラッドストーン氏と他の自由黨領袖の間に說を異にしチャンバリン氏等を領袖とする聯合自由黨は去つて現內閣即ち保守黨に荷擔することゝあれるが去月廿日右聯合黨と保守黨共同の朝餐會席上に於てチャンバリン氏は近頃有力の演說を爲せり其大意を記さんに聯合自由黨は恰も上陸して後ち船を燒き捨てたるが如く自由黨に向つて歸る能はざるものにして現政府に對し飽までも助力せんと誓ふたればグラッドストーン氏一生の間は同氏に向つて抵抗を試むることあるべし而して在朝黨は總べて黨派の私心を捨てゝソールズベリー侯及びハルフォア（愛蘭事務大臣）氏の勢力を維持せんと用意しバルフォア氏の愛蘭に對する政略は希望設計兩ながら稱賛に堪へざる所なしてチャンバリンも亦其政略に付ては大に責任あるものなり獨り愛蘭の政略に關するのみならず其他保守黨政府一般の政略に付て吾人い責任あるに相違なし如何とあれば吾人は屢々政府の質問を受けて助言する毎に多くは計用ひられざるのみとあるにもせよ政府を援助するに決して違變あるべからず現政府は今漸く二年間持續したるのみなれども今後五年を經て滿七年の一期限は充分其勢力を保つのみと蓋し決して疑ひならざるなりとの意味にて同氏が此演說を爲すや否やグラッドストーン氏の機關新聞と聯合黨機關新聞の間に或は非難し或は辨護し其是非する所矛盾と一般相反對するは實に左もあるべき事にして茲に局外の判斷を下せば右チャンバリン氏の演說は遠からず或る一致黨の起るべき前兆なり抑も一致黨組織の事に付ては過ぎし頃よりチャーチル、チャンバリン、ハーチントン其他溫和保守黨員の間に協議ありて既に其議も大略は熟したる樣子なればチャンバリン氏の此演說を始めとして追々其實情顯はれ終に來る總撰擧の曉に全く世間に發表するに至るべしと云ふ

○獨逸學生の情態（前號の續き）　扨て又此の組合の親密なるは實に非常にして常に「貴樣何をセロ」の語氣を以て交際し居れども其間柄は整然たる規律有りて日に親みて益々敬するとでも謂ふべき有樣ありて惰弱に流れ上下の禮を缺くことなく約束、時間、貸借等は寸分規を違ふ樣の事無くして之れを日本學生の土曜日の約を日曜日に延べ借りたる金は我物なりと思ふ如き習慣を回想しては冷汗を流すの外無し學生の情態斯の如くなれば其資格も從つて高く日本學生の如く社會一般より書生は天下の亂暴者と見做され欺辱ふまで引合ひに出されながら尙も知りつゝ稱にい英雄を氣取てビスマーク、グラッドストンも人なり我れも人なり何んでもホラと亂暴は書生の內に在りあと誤解して甚ざしきは是れを外形上にさへ顯して恬然恥ぢざる者に比すれば其差幾何ぞや日本書生は少しく顧慮する處ありて可なり、獨逸書生の社會一般より尊敬せらるゝ一例を擧ぐれば誤つて途上違警罪に觸るゝや普通の人あれば拘引せらるゝに所なれ共學生あれば姓名を署せし迄にて拘引せらるゝとなく後刻其違警罪の輕重に相當したる罰金を宿所へ取りに來る如き始末あり以て日本學生と獨逸學生との位地の差違を知るべし、扨て獨逸の學生い前記の如き資格を有するを以て自分一己の名譽は延いて國家の名譽に關し國家の爲めには生命をも擲つの主義にあり居るを以て他人に無禮を受くるや名譽回復の目的よりして即ち決鬪を行ふことなるなり今其概略を述ぶれば他人より無禮を受くるや其人人は直ちに無禮者に向て名刺を乞ふあり乞はれたる者は又名刺を與へざるを得ざるの風なり而して名刺を得るや直ちに組合よりて無禮の始末を說き其不禮にして決鬪の價値ある時は更に使を以て無禮者に決鬪并に其日限を申込む無禮者は決鬪を申込るゝや應病者なれば兎も角も互に伍角の資格を有する者あれば之れを應じて組合の人なれば自己の組合に告げて決鬪の用意を爲し組合外の者なれば更に組合に入るなり其武器は決鬪を申込れし者より之を擇び此の如くにして定期の時日に至るや寸刻を違へず設けの決鬪場に出場す此時の見物人は非常ある者なり而して兩方の組合よりは各々審判官として組長出場し或る時にい前記の如き名譽會員たる貴顯も其席に列ありとあり同時に必ず醫師も附添ひ居れり尤も事柄よりは必ず死を決せざるを得ざる者あれば兎も角其處は文明國丈けありて生命の貴重なるを知れば醫師の診察上就れか生命に關する程の傷を受くる時は中止して勝敗を決するなり、勝敗に於て勝敗既に毀傷を受くるに至る時は命なき時は闘はざるなり、野蠻風あり其元氣を維持が故なりとして嚴禁に陷いりたるも由尤も文明を禁止し有れども謂ふ所以は知るべし且つ決する能はざるの之れに應ずるは僅々二三箇月名譽とある此然れども同社會に絕たるとして嚴禁に陷いりたるも文明の意を誤解し居の多きを鑑みて九人迄面部の組合の如きは有るよし是れのにて亦是非雄當年の事跡感慨する文曳く所なるが日本の名所なる詩人杯の雜草に腰掛しも是より後出て〳〵來遊なるべきや、川家康が織田の幕の中に大敗三百餘年後の計るには一新する感じ居りしく平均一年する服部東春れに有志者倶樂部樣の家の事なりしは勿論在東京々よりも贊成會館より去る廿一日陸軍將校學校教員、園式に參て煙火、山車、獅せる者夥たし

○尾州小牧山